

幼児期の感情表現および意識的な身体表現による 母子間のコミュニケーション

高野 牧子

要 旨

子どもの感情表現や得意なポーズや変身遊びのような意識的な身体表現を、母親がどのように読み取り、理解しているのか、ラバン理論の動きの視点より分析し、特徴を明らかにした。また子どもの感情表現への母親の対応傾向も併せて分析した。アンケート調査は1～2歳の子どものもつ母親54名に実施し、自由記述の内容を身体部位、動作、ダイナミクス、空間性、関係、言葉、表現しない、以上7カテゴリーに分類し、特徴を検討した。

その結果、母親は子どもの怒り、嬉しい、悲しい感情表現を身体部位や動作、ダイナミクスの3つのカテゴリーで70%以上記述していたのに対し、怖い、甘えたい感情表現は母親への関係と言葉の2つのカテゴリーの記述が40%以上と多かった。具体的な動作として、嬉しい時にはジャンプや回旋動作が特徴的であり、怒り、怖い、悲しい時の感情表現では「泣く」動作が主である。母親は泣き方の差を身体部位やダイナミクスから理解していた。

一方、母親の対応は嬉しい時には同じ動作で対応する割合が56%と高く、子どもと一緒に同じ動作をして、喜びを共感し、子どもと思わず共振していることが示された。それ以外の感情表現に対しては、関係や言葉での対応で40%以上を占め、子どもを抱きしめ、言葉で感情を落ち着かせる対応であった。

得意なポーズでは身体部位が56%を占め、多くは子ども独自のものではなく、社会的に認識されているサインであった。変身遊びでは動作の記述が75%を占め、身近な動物や家族のしぐさ、TVヒーローの動きを模倣した身体表現であった。これらは、母親と子どもが一緒に見ているもので、母親が子どもの身体表現を簡単に理解し、共有できると考えられる。一方、一人ひとりの子どもが感じたまま表した創造的な身体表現については記述が少なく、子ども自身の独創的な身体表現については理解せず、見落としているのではないかと推測された。

キーワード：感情表現、身体表現、ラバン理論、母子間のコミュニケーション

1. 研究目的

幼児期の感情の発達については、Bridges, K. M. B (1930) の情動の分化が有名であり、24カ月には快は得意、大人に対する愛情、子どもに対する愛情、喜びへ、不快は怒り、嫌悪、恐怖、嫉妬へと分化するとしている。また Mandler, G. (1984) もそれまでの研究者の論を比較し、恐怖、怒り、喜び、嫌悪、関心、驚きの6つの情緒が共通にあげられていると指摘している。従って、2歳児ではほぼ、基本的な感情は生起すると考えられる。

さらに、Lelord, F. と Andre, C. は「感情 (emotion) とは私たちの精神や身体、行動に影響を与える、突然の全身的な反応である」(p.15)と定義し、その身体性を定義に盛り込んでいる。また工藤は「感情の伝達=ことばによる感情表現(7%) + 声による感情表現(38%) + 顔による感情表現(55%)」と Mehrabian, A. の研究を紹介し、自身の研究結果もこの割合をほぼ支持すると述べている。つまり、感情がバーバル・コミュニケーションより、ノンバーバル・コミュニケーションに大きく依存していることは多くの研究で一致して

(所 属)

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

いるところである。

さて、筆者は、幼児の欲求場面における身体表現による母子間のコミュニケーションをラバン理論の動きの分析視点より研究し、その特徴を明らかにしてきた。そこで、本研究では子どもの感情表現を母親がどのように捉えているのか、ラバン理論より分析し、母親が子どものどのような動きから子どもの感情を読み取り、理解しているのか、その特徴を明らかにする。またこうした感情にどのように母親が対応しているのか、感情による対応の差の傾向を明らかにしていく。

さらに、子どもが意識的に行っている得意なポーズや変身遊びについて、母親が気づき、認識している動きの特徴について検討をしていく。得意なポーズや変身遊びは、子どもの中にあるイメージをからだで表現している行為であり、内的イメージの外在化であると考えられる。外在化された内的イメージを母親は読み取り、イメージを共有していくことによって、コミュニケーションが成立すると考えられる。このような身体的コミュニケーションに焦点をあて、母親と子どもの身体性から考察していきたい。

2. 研究方法

山梨県 F 町の子育て支援講座に参加した親子にアンケート調査を実施した。

第一期調査 (2007～2008 年)

対象者 親子 24 組／男児 10 名／女児 14 名
(13 か月～24 か月)

第二期調査 (2008～2009 年)

対象者 親子 30 組／男児 11 名／女児 19 名
(13 か月～24 か月)

質問項目

〈感情表現〉

Q 1: お子さまが怒った時はどんな表現?

その時、お母様はどうしますか?

Q 2: 嬉しいときは?

その時、お母様はどうしますか?

Q 3: 怖いときは?

その時、お母様はどうしますか?

Q 4: 悲しいときは?

その時、お母様はどうしますか?

Q 5: 甘えたいときは

その時、お母様はどうしますか?

〈子どもの意識的な身体表現〉

Q 6: 得意のポーズは?

Q 7: どんな変身遊びが好きですか?

3. 分析手順

① 母親の記述による子どもの感情表現をラバン理論の動きの分析視点である 5 カテゴリー、身体部位 (何を?), 動作 (どんな?), ダイナミクス (どのように?), 空間性 (どこで?), 関係 (誰と?) に、「言葉」と「表現しない」を加え、7 カテゴリーとし、全ての自由記述を分類する。同様の記述とみなせるものはまとめ、記述件数を記載する。こうして得られた結果を資料 1 とし、その特徴を検討する。

なお、分類の詳細は、身体部位が記述されているものは身体部位へ、また「部屋のすみ」や「床」など特定の場所を示す記述は空間性に分類した。また動きの質とは、時間性、力性など動きの様子がわかる記述とし、「ぐずぐず」や「もじもじ」など時間に関わるものや「ぎゅ〜っ」「静かに」など力性に関わるものを分類した。さらに、関わりについては、「抱く」「抱きついてくる」など直接的に子どもが母親に関わる内容の記述とする。

② 子どもの感情表現に対する母親の対応についても、①と同様のカテゴリーに分類し、資料 2 にまとめ、特徴を検討する。

③ 子どもの意識的な身体表現についても①と同様の手順で分類し、さらに記述内容を同種に分け、子どもの得意なポーズを資料 3、変身遊びを資料 4 にまとめ、意識的な身体表現の特徴を考察する。

④ ①～③の結果を合わせ、母親がどのような視点で子どもの感情、及び意識的な身体表現を理解しているか検討していく。

4. 結果および考察

4-1 ラバン理論による表現方法の分類比較

量的な特徴を検討する為に、資料1より感情表現ごとにカテゴリーの記述件数を表1にまとめ、図1にグラフ化した。同様に資料2についても表2、図2を作成した。

子どもからの感情表現のメッセージは、感情によって異なるカテゴリーから母親は読み取ってい

る。子どもが怒った時は身体部位、動作が共に28.2%、次いでダイナミクスが20.5%と、怒りの感情の爆発は、言葉ではなく、動きを中心に母親へ伝わっていると考えられる。また嬉しい時については動作30.8%、ダイナミクス26.9%、身体部位25.6%と上位3つは怒った時と同様であるが、ダイナミクスの記述は感情場面の中で最も多くの割合を占めている。怖い時は身体部位

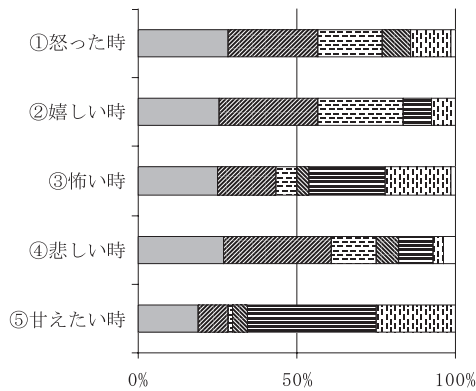


図1 子どもの感情表現

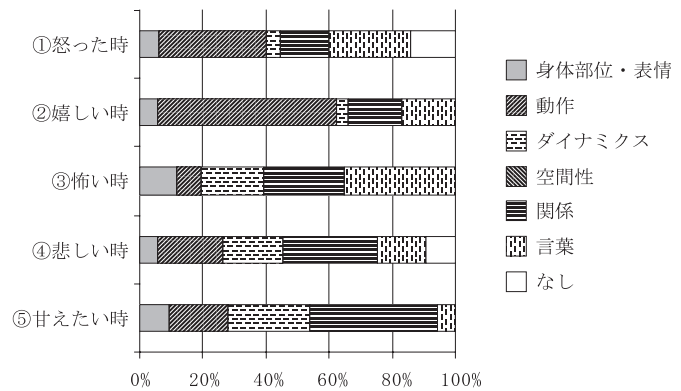


図2 母親の対応

表1 子どもの感情表現

子どもの表現	身体部位	動作	ダイナミクス	空間性	関係	言葉	なし	N
①怒った時	22 28.2%	22 28.2%	16 20.5%	7 9.0%	0 0.0%	10 12.8%	1 1.3%	78
②嬉しい時	20 25.6%	24 30.8%	21 26.9%	0 0.0%	7 9.0%	6 7.7%	0 0.0%	78
③怖い時	19 25.0%	14 18.4%	5 6.6%	3 3.9%	18 23.7%	16 21.1%	1 1.3%	76
④悲しい時	15 26.8%	19 33.9%	8 14.3%	4 7.1%	6 10.7%	2 3.6%	2 3.6%	56
⑤甘えたい時	12 18.8%	6 9.4%	1 1.6%	3 4.7%	26 40.6%	16 25.0%	0 0.0%	64

表2 母親の対応

母親の対応	身体部位	動作	ダイナミクス	空間性	関係	言葉	なし	N
①怒った時	5 5.9%	29 34.1%	4 4.7%	0 0.0%	13 15.3%	22 25.9%	12 14.1%	85
②嬉しい時	3 5.7%	30 56.6%	2 3.8%	0 0.0%	9 17.0%	9 17.0%	0 0.0%	53
③怖い時	6 11.8%	4 7.8%	10 19.6%	0 0.0%	13 25.5%	18 35.3%	0 0.0%	51
④悲しい時	3 5.7%	11 20.8%	10 18.9%	0 0.0%	16 30.2%	8 15.1%	5 9.4%	53
⑤甘えたい時	5 9.3%	10 18.5%	14 25.9%	0 0.0%	22 40.7%	3 5.6%	0 0.0%	54

(小数第二位四捨五入)

25.0%に次いで、関係 23.7%、言葉 21.1%と怒った時や嬉しい時とは大きく異なり、関係や言葉での訴えから母親は理解している。悲しい時では動作 33.9%、身体部位 26.8%で6割を占め、ダイナミクスや関係も記述があった。甘えたい時は関係 40.6%、言葉 25.%が上位2つであり、動きよりも関係や言葉での表現から、母親の多くは理解しており、他の感情表現とは大きく異なっている。

母親の対応では、怒った時には動作での対応が34.1%と最も多かったが、言葉での対応も25.9%と、両者で併せて約6割の母親が動作と言葉で対応していると回答した。また、ほっておくという対応を「なし」としたが、これも14.1%と、全ての感情表現で最も高く、子どもが怒った時の対応として、時間的に間をおいて、子どもの気持ちが自然に静まることを待つ母親も多くいることがわかった。嬉しい時は動作が56.6%と集中しており、動作で共感していると考えられる。怖い時は言葉での対応が35.3%と最も高く、抱くといった関係での対応がこれに続く。悲しい時には関係30.2%がトップになり、動作での対応が20.8%であり、両者で5割を超す。甘えたい時には関係40.7%、またダイナミクスも25.9%と他の感情表現への対応より高かった。全体には空間性に関する記述はなく、例えば、「子どもの視線まで下がる」などの保育者としての基本的な対応とは大きく異なっており、空間性についての意識は低いと考えられる。

子どもの感情表現について、母親は身体部位にまで多く着目して記述しているが、母親自身の対応では、身体部位についての記述は少ない。また、子どもの感情表現については、動作についての記述が甘えたい時を除き、20~30%を占めているが、母親自身の対応では、怒った時や嬉しい時は動作で応じているが、それ以外の場合はあまり動作では対応していないことがわかる。ダイナミクスに関する記述は、子どもの表現では怒った時、嬉しい時に記述が多いのに対し、母親の対応では怖い時、悲しい時、甘えたい時に記述がみられる程度である。空間性については、子どもの表現では怒った時、悲しい時に少し記述が見られたが、

母親の対応では1件も記述がなく、欲求場面では子どもの欲求を理解するのに、空間性が利用されていたのに対し、感情表現では空間性からの理解は低いと考えられる。関係については、子どもは怖い時、甘えたい時に母親に直接関わりを求めてくるので記述が多く、母親の対応としては悲しい時や甘えたい時に抱く、抱きしめるなどの対応で直接子どもと関わり合っ、情動を調整していると考えられる。言葉での訴えは、子どもでは怖い時、甘えたい時にみられるが、母親の対応では怒った時や怖い時に言葉でなだめている割合が高い。

4-2 母親が記述した感情表現における子どもの身体表現

母親がどのような身体表現から子どもの感情を理解しているのか、それぞれの感情について具体的な記述をみていくこととする。

(1) 怒った表現

身体部位が記述されているものは22件あり、「口をとがらせて〜」「顔を真っ赤にして〜」「ほっぺをふくらませて〜」「みけんにシワがよって〜」など、ほとんどが顔の表情を捉えている。また「手を振り回す」「手足をバタバタ」など、大きく動かす場合と「手をグー」など、緊張した静止の場合があった。

動作での表現記述も多く22件であった。他の感情表現よりも多様性が認められた。例えば「叫ぶ」「わめく」「泣く」「泣きくずれる」といった声を伴う大きな動作や、「物を投げる」「倒れこむ」「寝転ぶ」「たたく」「反り返る」など、かなり大きな動作が多い。

ダイナミクスについての記述は16件あり、「ウギャ〜!! と大泣き」「買い物の時などはあおむけになって手足ジタバタして大泣き!!」「イヤぁーと叫び、体を反って怒る」など、とても激しい様子がよくわかる記述が多い。空間性は7件で、「床へ〜」という表現が多く、下に寝転がるのが特徴といえよう。関係は1件も記述がなく、他の感情では母親のところへ走ったり、抱かれたりと関係を求めるのだが、子どもが怒った場合にはむしろ関係を求めず、子ども一人で動いて表現し

ていることがわかる。言葉での表現は「んっ!!
んっ!!」など、言葉にならない音の場合も含め
10件と少ない。母親は言葉より、全身の大きな
激しい身体表現と顔の表情から、読み取っている
と考えられる。

(2) 嬉しい表現

身体部位については19件と多く、「目を細く
して〜」「笑顔で〜」「顔をクシャクシャにして〜」
など目や口などの頭部、特に表情についての記述
が大多数であるが、その他、「手をぱちぱち〜」
「足をバタバタ〜」「お尻フリフリ」など、それぞ
れの身体部位でのリズムカルな動きが表現されて
いた。

動作では「笑う(3以下、数字は同様の記述件
数)」の他、「ジャンプする(7)」「気持はジャン
プ(2)」「飛び跳ねて笑う」「はねる」など、垂直
方向の跳ぶ動作が多い。また「走り回る」「踊る」
など、水平方向の回旋動作と捉える動作も多い。
さらにダイナミクス(21)として「バンザイして
飛び跳ねる」「体でピョンピョン〜」「つま先立ち
でくるくる回り」など、ジャンプや回旋動作を強
化するような方向での生き生きとした記述が他の
感情場面より最も多く記述された。多くの原始的
な舞踊は狩猟や収穫の喜びと神への感謝をこめて、
垂直ジャンプや回旋動作から構成されている。子
どものジャンプや回旋動作は人間の根源的な快表
現として、母親にもとてもわかりやすいと考えら
れる。

空間性についての記述はなく、また関係は6件
と少なく、他の場面が多い「抱きつく」は1件の
みであり、言葉での表現も6件と少なかった。嬉
しい時には子どもが全身で跳ねたり、回ったりし
ている様子から母親は多くの場合、理解している
といえよう。

(3) 怖い表現

身体部位は19件と多く、そのほとんどが「顔
をこわばらせる」「顔(表情)が固くなる」など
顔や表情のこわばりについての記述であった。動
作は「泣く(5)」「かたまる、動かない(4)」、ダ

イナミクスでは「後ずさりして泣く」「ふるえて
泣く」など躊躇しながら、子どもが訴えかけてい
ることがわかる。圧倒的に多いのは関係の18件
で「抱きついてくる(6)」「しがみつく(3)」など
である。さらに言葉での表現も16件と他の場面
に比べて多く、母親に助けを求め、守ってもらい
たい様子が明らかであり、子どもからのメッセー
ジは伝わりやすいと考えられる。

(4) 悲しい表現

身体部位ではすべてが顔に関する記述(15)で
あり、「顔をくしゃくしゃにして泣く」の他、「眉
をひそめたり〜」「への字口」など、眉、目、口
などの部位が他の表現に比べ、特に多い。動作の
ほとんどが「泣く(10)」「泣き叫ぶ(2)」であり、
多様性はないが、ダイナミクス(8)では「ギャ〜
〜と泣き叫ぶ(2)」のように大声で激しく泣く
場合と、「涙をこらえて・・・涙を流します」な
どのように静かに泣く場合と、泣き方には大きな
違いがあるようである。空間性(4)では、「床に
伏せて泣く」など床面での低い姿勢での動きであ
る。関係は意外にも6件と少なく、言葉は2件と
他の場面と比べ、一番少ない。また「あまり悲し
まない?」「実はよくわからず…泣きだしている
ことが多い」とする記述もあり、子どもが悲しみ
の表現をしないのか、また母親が子どもの悲しみ
のメッセージをうまく読み取れていないのか、疑
問が残るところである。悲しい気持ちは言葉や直
接母親に関係を求めてくることが少なく、わかり
にくいかもしれない。

(5) 甘えたい表現

身体部位では「少し悲しそうな顔になります」
のように表情や「頭を押し付けてくる」など、具
体的な部位を記述した身体接触が12件あった。
動作は5件で「両手を広げて抱っこしてのポーズ
(4)」、また「泣きマネをする」もある。甘えたい
時の表現で最も多い24件は関係に関するもので
「抱っこをせがんでくる(7)」など、母親に直
接、身体接触を求めてくる表現であった。この他
言葉による表現も17件と関係に次いで多く、悲

しい気持ちとは対照的に、身体接触や言葉で子どもは母親に気持ちを伝えており、母親も理解しやすいのではないかと考えられる。

4-3 母親の対応についての身体表現

子どもの感情表現への対応について、場面によって母親の対応も異なっている。以下にそれぞれの場面での母親の対応の詳細をみていきたい。

(1) 子どもが怒った時

母親は子どもが怒った時、他の感情に対する対応に比べ、多様な意見があったことが特徴である。これはケースによって対応を分けることが多いことに起因すると考えられる。本調査では「抱いてなだめる(16)」が最も多い対応方法であったが、「言い聞かせる(14)」「ほっておく(12)」「気をそらす(9)」の件数も多い。母親は怒った子どもを「抱く」「抱きしめる」というふれあいによって心を落ち着かせる場合や、話して納得させる場合、「放っておく」「気をそらす」といった間をおく対応で凌ぐ場合があった。子どもの様子や状況によって、母親の対応も様々に使い分けしていると考えられる。

また「怒る、叱る(7)」「一緒に怒ってしまうことがある」「私もイラついている時は怒る時もある」「おしりを叩く」なども比較的多かった。2歳児は親との葛藤も多い。子どもも親も相手が自分の思い通りにならない苛立たしさがある。また子どもが訳も分からず怒りだして物を投げるなど危険が伴う行為については、母親はつい冷静な対応ができない場合もあるだろう。対照的に「自分も怒ったまねをする(子どものまね)」のように「真似する(3)」、子どもの怒る姿が「かわいくて笑ってしまう」などの「かわいい、笑う(5)」などは、少し冷静に子どもを見て、客観的に子どもの感情の爆発が沈静化するような働きかけをしているケースであると考えられる。

(2) 子どもが嬉しい時

母親の対応では「同じ動作(ジャンプ、踊るなど)(11)」が最も多く、次に「抱く」「言葉かけ」「一緒に喜ぶ」がそれぞれ9件であった。動作で

は「拍手(7)」、表情では「笑顔(6)」「同じ表情(3)」などがある。動作ではジャンプ、足踏み、飛び跳ねる、踊るなど、下肢の動きを伴うことが多い点が特徴である。また「一緒に～～」とする記述が24件と半数近くに及び、思わず子どもと同じ動作をして共感していると答えていた。幼児期において、同じ動作をして、共感しあうことは報告されている(森 1999、砂上 2000)が、親子において、特に快表現でこうした共感が多く行われていることは興味深い。他者とどのようにコミュニケーションをとっていくか、2歳児においては、母親を見本にして、他者とからだを通して共感することを学んでいくのではないだろうか。

(3) 子どもが怖い時

母親の対応は「抱く、抱きしめる(22)」「抱いて言葉かけ(18)」の2つに集中した。優しくそっと抱くのではなく、しっかりぎゅっと抱きしめることで、不安を取り除き、安心感を与えることが顕著な対応であった。また、言葉かけも「大丈夫だよと安心させてあげます」のように大丈夫という言葉が多く用いられている。さらに「こわいねぇ」と子どもの気持ちを代弁し、一緒に共感する態度が見受けられる。

(4) 子どもが悲しい時

「抱く、抱きしめる(21)」が大多数を占め、子どもの悲しい気持ちを母親は抱く行為で受け止めている。この他「言葉かけ(8)」では「どうしたの?」と聞くだけでなく、「～でなきたくなっちゃったんだねと言う」など子どもの気持ちを母親が代弁してあげる対応もあった。

その一方、「ほっておく(6)」の場合もあった。この「ほっておく」行為は、子どもが怒った時と悲しい時にのみ出現した。この2つの感情表現の場合、親が子どもに共感できる場合だけではなく、例えば、危険な物を親が子どもから取り上げた結果、子どもが怒ったり、悲しんだりするような利害が対立する場合もあり、対応に差異があることは当然だと考えられる。

(5) 子どもが甘えたい時

圧倒的に「抱く、抱きしめる(28)」が多い回答であった。特に「ぎゅーってしてあげる」「ぎゅっと抱きしめる」のように「ぎゅっと」という言葉が多く使用され、子どもへの愛情を母親もぎゅっと抱きしめることで伝えていると考えられる。また抱くだけではなく、抱きしめながらキスや頬ずり、なでるなど、身体接触の強化が図られている。抱く以外には、膝に座らせたり、一緒に遊んだり、子どもの欲求に応じる対応が多く見られた。一方、「手が離せない時はテレビなどで気をそらします」のようにテレビや我慢させる場合もあるが、「ほっておく」行為は1件もなかった。

以上より、嬉しい時以外の感情表現に対し、母親の対応としては基本的に「抱く」行為を核にして、子どもの感情表現によって「抱き方」を少しずつ変えながら対応していることがわかる。

4-4 母親が記述した子どもの意識的な身体表現

子どもの意識的な身体表現は、子どもの得意なポーズと変身遊びについて母親に尋ねた。感情表現と同様に、身体部位、動作、ダイナミクス、空間性、関係、言葉、なしの7項目に分類した結果を資料3、4にまとめ、表3、図3を作成した。

得意なポーズでは身体部位が56.0%を占め、子どもの頬、両手など、具体的な身体部位を明記している。また動作22.0%の他、ダイナミクスの記述も14.0%あり、子どもの動きの様子までしっかりと捉えていることが伺える。

変身遊びについては、動作での記述が75.4%を占め、ダイナミクスに関する記述は得られなかった。身体部位についても記述も得意なポーズに比べ少なく、言葉を伴うものや「まだ変身遊びはしない」という記述も4件(6.6%)あった。

意識的な身体表現では空間性や関係についての記述は得られなかった。

以下に、具体的に得意なポーズと変身遊びについて、その特徴を検討していく。

(1) 子どもの得意なポーズ

「ハイ、ポーズ」と両手の人差し指でほっぺをさわり、にっこり」などのように、身体部位の中でも特に頬に手をあてるポーズが多い。また「やったぁ!」「できた!」と両手をあげます」のような両手を上にあげる記述が多い。動作でも「ばんざ〜い」という記述がほとんどである。「バンザイ」動作は社会的に喜びの表現として共通に認識されており、子どもが見て真似する機会も多く、母親も子どもの得意なポーズとしてわかりや

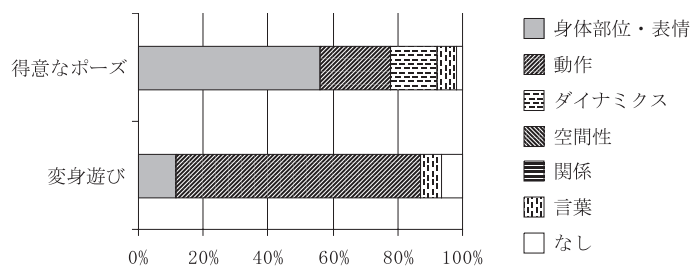


図3 子どもの意識的な表現

表3 意識的な身体表現

意識的な身体表現	身体部位	動作	ダイナミクス	空間性	関係	言葉	なし	N
得意なポーズ	28 56.0%	11 22.0%	7 14.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.0%	1 2.0%	50
変身遊び	7 11.5%	46 75.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 6.6%	4 6.6%	61

すいと考えられる。

この他、「ピースサイン」や「いないいないばぁ」も共通に認識されているサインであり、わかりやすい動作が手掛かりとなって母子間のコミュニケーションが促進されているのではないかと推測される。

(2) 子どもの変身遊び

変身遊びでは、動物になるものが16件と一番多かった。これは『パンダうさぎコアラ』や『こぶためきつねこ』のように歌詞に出てくる動物にあわせて、振付が決まっているものが多いからだと考えられる。また猫や犬など、身近な動物で、鳴き真似から入る場合も多いようだ。

次に多かったのは、TV番組の戦隊ヒーローに変身する遊び12件で、人気お笑い芸人の真似なども7件であった。TVから直接映像としてイメージが入ってくるヒーローなどは子どもが受ける影響が大きく、真似しやすいと考えられる。さらに家族の真似も9件と多い。

つまり、母親が子どもの身体表現を簡単に理解できるものは、家族のしぐさやTVなどで行われている身体表現であり、子どもと共有しやすいと考えられる。具体的な親子活動での事例では、子どもが表現する際、下の写真は、母親が「サル」を表現し、それを同じように子どもが真似し、その様子を母親が「おサルさんね」とラベリングし



お母さんと一緒に「おサルさん」

たケースである。このように子どもは親、家族の様子やTVで「見る」動きを模倣し、共有できる身体表現を獲得していくことを意味している。

西(2001)は、例えば、うさぎを表現する場合、両手を頭の上にあげ、長い耳を表現するなどの一般的な身体表現を定型表現とし、一人ひとりの子どもが感じたまま表した身体表現を創造的な表現とした。こうした創造的な表現については、記述が少なく、子ども自身の独創的な身体表現については理解せず、見落としているのではないかと推測される。

5. まとめ

(1) 子どもの感情表現

母親は、子どもの感情表現の中で、怒り、嬉しい、悲しい時には身体部位や動作、ダイナミクスから読み取っており、この3項目で70%以上であった。一方、怖い、甘えたい時は母親への直接的な関係や言葉の記述割合が40%以上と多い。

具体的な動作として、嬉しい時にはジャンプや回旋動作が特徴的であり、怒り、怖い、悲しい時の感情表現では「泣く」動作が主である。母親は泣き方の差を身体部位やダイナミクスから理解している。従って、欲求場面に比べ、身体部位やダイナミクスにも着目し、子どもの動きの様子をよく見てしていると推測できる。

(2) 母親の対応

母親の対応は、嬉しい時には同じ動作で対応する割合が56%と高く、子どもと一緒に同じ動作をして、喜びを共感し、子どもと共振していることが示された。それ以外の感情表現に対しては、関係や言葉での対応で40%以上を占め、子どもを抱きしめ、言葉で感情を落ち着かせる対応であった。身体部位の記述は10%以下と少なく、空間性についての記述は1件もなかった。つまり、保育者の対応であれば、例えば、「子どもの目を見て話す」「子どもの視線と同じ高さになって」「子どもが落ち着く部屋の隅で」などのような、身体部位や空間性に関わる記述も想定できるが、母親自身からの記述ではなく、母親自身の身体や空間性に対する意識が薄いと推測される。

(3) 子どもの意識的な身体表現

得意なポーズでは身体部位が56%を占め、「手のピースサイン」や「両手をあげてバンザイ」など、社会的に認識されているサインによって、母子間コミュニケーションが促進されている。

変身遊びでは、動作の記述が75%を占めた。具体的な動作は家族のしぐさやTVのヒーローの動きを模倣した動き、また「手遊び」に出てくる動物などの身体表現であった。これらは、母親と子どもが一緒に見ているもので、母親が子どもの身体表現を簡単に理解し、共有できると考えられる。

以上の結果より、次に示す3つの知見が得られた。

第一に、母親が理解しやすい子どもの身体表現は、人間の根源的な快表現である跳躍や回旋、社会的なサイン、そして共通のイメージがある身近な人やTVの身振りである。また、母親に抱きついてくるなど、直接関わりを求めてくることはわかりやすい。つまり、母子共通のサインやイメージ、身体接触は母子間のコミュニケーションを促進するものであると指摘できる。従って、母子間で共通のイメージを持つことや身体接触は母子間のコミュニケーションで非常に有効であると考えられる。

第二に、母親は子どもの「泣く」動作において、身体部位やダイナミクスの視点から子どもの感情の差を理解している。欲求場面ではダイナミクスに関する記述がほとんど見られなかったことを鑑みると、母親が子どもの感情を理解する時には、より動きそのものの質を丁寧に見ているといえよう。こうした視点を意識的に母親に伝えることによって、子どもの身体表現の理解を促すことができ、さらに見落としている可能性のある子どもの創造的な身体表現に気づく目を養うことができると推測される。

第三に、母親の対応は子どもを抱きしめ、言葉で落ち着かせることが主である。母親自身の身体性や空間性への意識は薄く、子どもと一緒に動いて感じあうことは少ないことが示唆された。唯一、嬉しい時は、思わず子どもと同じ動作を行って

ることを手がかりに、母子で一緒に弾み、回り、楽しい体験を多く積むことで、からだを通してコミュニケーションをしあうことも重要であるといえよう。

子どもは母親や身近な人、TVなどで見る動きを模倣しながら、身体表現を開拓している。定型的身体表現を母親も一緒に楽しむだけでなく、子どもの創造的な身体表現にも気づき、認めることによって、子どものより豊かな身体表現が培われると考えられる。さらにこうした身体表現の活発なやりとりが基盤となり、母子間の身体表現によるコミュニケーションも活性化し、お互いの理解も深まるのではないだろうか。今後は、身体表現による親子活動の具体化を図っていきたい。

文献

- Bridges, K.M.B (1930) Ageretic theory of emotion. *Journal of Genetic Psychology*. pp.37, 514-515
- Lelord, F., Andre, C. (2005) 高野優訳『感情力』紀伊國屋書店
- Mandler, G. (1987) 田中正敏、津田彰監訳『情動とストレス』誠信書房 p.51
- Mehrabian, A. & Wiener, M. (1967) Decoding of inconsistent communications. *Journal of Personality and Social Psychology*, 6.
- 工藤力 (1999) 『しぐさと表情の心理分析』福村出版
- 砂上史子 (2000) 「ごっこ遊びにおける身体とイメージ」, *保育学研究* 第38巻2号, pp.41-48
- 高野牧子 (2009) 「幼児期の欲求場面における身体表現による母子間のコミュニケーション」 *山梨県立大学紀要* 第4号, pp.21-29
- 西洋子 (2001) 保育者と身体性, *保育学研究* 第39巻1号 pp.12-19
- 福田正治 (2003) 『感情を知るー感情学入門ー』ナカニシヤ出版
- 福田正治 (2006) 『感じる情動・学ぶ感情』ナカニシヤ出版
- 森司朗 (1999) 「幼児の『からだ』の共振に関して一対人関係的自己の観点から」 *保育学研究* 第37巻2号 pp.24-30

資料1 子どもの感情表現

	① 怒った時	② 嬉しい時	③ 怖い時	④ 悲しい時	⑤ 甘えたいとき
身体部位	目をしばしば(パチパチ)させる。	笑顔で手をたたいてよろこぶ(3)	無表情で顔をこわばらせる	顔をくしゃくしゃにして泣く(2)	口をもぐもぐ…舌を上歯につけて吸うまねをしています…(下に妹が生まれてから多くなりました)
	上目づかいでニラんでくる	目がなくなるくらいニコニコ	さがりまゆ	眉をひそめたり、自分の頭をなでなでします	少し悲しそうな顔になります
	目をすわらせて口をとがらせる(2)	歯を見せながら大きく口を開けて笑う	顔(表情)がかたくなる	目を伏せて悲しげな表情をします(笑)	両手をあげ、口をへ字で求める(イラスト)
	手をふりはったり、顔も「めっ!!」っていう顔になります。	目を細くしてフフフと笑います	両手をグーにして、ブルブルふるわせる	への字口が特長	少し泣き顔と少し笑顔でPrettyな顔です
	ほっぺをふくらませて腕を上から下に振り下げる	『イ〜〜!!』の顔をして遊ぶ	クシャクシャな顔をして怖がります。涙を流す	への字口になって、涙目になる	「たぁ〜ん」目を閉じて悲しそうな顔をする
	口をとがらせて、ほっぺをぶーっとふくらませ、モウ!!と言います	手を顔に持っていて、口や鼻にあてながら体を振って笑う。	両手をひろげて左右にふるえる。そして後ずさり…。	口をとがらせ、首をかしげながらたそがれる	両手をあげて「抱っこ抱っこ」と目で訴える
	手をふり回す	顔がくしゃくしゃになるほどの笑顔	頭をおさえておびえる(不安そうな)顔をします	涙を出し、手で顔を隠します	ニ〜〜〜んという笑顔
	自分の手で頭をなぐります	はにかむような顔、にやっとしたり顔をくしゃっとして笑ったり	体が硬直、ボロボロ涙	口に指を入れたり、涙を浮かべたり、	両手をあげて、背中にお腹をくっつけてくる
	まゆげを、真ん中に寄せる	目を細めて大声で笑う	「こわい」眉をしかめて洗う顔。	痛がった時など(イラスト)目をつぶって口をへ字の字)	頭を押し付けてくる
	ひどい時は手足をバタバタしてあばれることもあります。	お尻フリフリ	手を上下させる	(イラスト)笑顔⇒目と眉が八の字⇒泣く	指をくわえたり、またの間に入ってくる
	顔を赤くして怒る、泣く(2)	おどけた表情をする	顔をふせる	顔をクシャクシャにしてくずれおちる	抱きついて頭をこてんとくっつけてきます
	みけんにシワがよって“ムッ”とした表情。	顔をクシャクシャにして手をグーにしてリズムよく歩く。	足にギュッとしがみつくと	指をしゃぶってベソをかく	ひざに入ってくる
	顔を真っ赤にして、手はグウ。時にはひっくりかえります泣いてイヤイヤと首をふる	足をバタバタ、手をパチパチして笑顔 顔をくしゃくしゃにして笑いながら、体全体ではねたり、おどろようなしぐさをして	すごく不安そうな顔でしがみついたり、 顔を押し付けてしがみつくと	顔を手で覆って「え〜ん」と泣きまねをしています。 半ベソ顔	
	口をとがらせて、かべにとらめっこをします	舌を出してニコッ	あわてた顔でママにとびついてきます		
	口をとがらせる	細い目になって少しよだれもでちゃいます。	私の所にビックリした顔、泣きそうな顔で走って来ます		
	体と頭を左右に振る	顔で表現する	不安気な表情をしてくっついてきたり、		
	大きな口をあけて、大泣きします。	足をバタバタして笑顔になり声を出して笑います	私の後ろにかくれる(私の足をつかみ、離さない)		
	両手をグーにして力む。		顔がかたまて泣くか、逃げる。		
	身体で表現する(手を上から下へふりおろす)				
88	22	20	19	15	12
動作	物を投げる(5)	ジャンプする(7)	泣く(5)	泣く(10)	両手を広げて抱っこしてポーズ!(4)
	(人やモノを)手でたたく(2)	(声をだして)笑う(3)	かたまる、動かない(4)	泣き叫ぶ(2)	最近赤ちゃん返りがすごいで泣きまねしたり
	泣く(2)	走る、走り回る(3)	半泣き	べそっかき…	甘え泣きしたり
	そばにあるものを投げ出す	踊る。踊りだす(3)	指しゃぶりをする	わめく	
	物を投げて泣く	気持ちはジャンプ(体はういてないけど)(2)	腰を抜かす	暴れる	
	泣きわめいたら、奇声をあげる	足ぶみ	大声を出し、泣き叫ぶ	引っくり返る	
	ふせて上をむかなくなる	体を左右にゆする	特に虫を見つけると急に泣き出しますが、すぐに機嫌が戻るようです。	寝転がる	
	走って行ってうつぶせに寝る。	飛びはねて笑う		泣きじゃくる	
	その場に倒れこんで泣きだす。	はねる		ふせて泣いている(まねの時もある)	
	あおむけになって、寝そべったりする	声をあげる			
	泣いてうつ伏せになる	最近はお島よしお(オッパッピー、チントンジャンテン、そんなのかんげーねえ)になる。			
	だっこすると反り返ってさわぐ				
	テーブルをたたく				
	物を叩きつけることも				
	うなる				
	泣きくずれる				
85	22	24	14	19	6

	① 怒った時	② 嬉しい時	③ 怖い時	④ 悲しい時	⑤ 甘えたいとき
ダイナミクス	猫のようにうぐぐぐ～しかめっつらでうなる～うなる～ ウギャー!! と大泣き 直立不動で全身に力を入れて大声で泣きます(抱っこしてくれるまで) バタバタと泣いたりする ギャーギャー!! とにかくさけぶ ねころんでジタバタ… 体全体を使って泣いて寝転んで怒ります。 買い物の時などはあおむけになって手足ジタバタして大泣き!! ふくれっつらをしてベチンというんな所をたたく 息をするのも忘れていぼど、泣いています。 真っ赤になってふんぞりかえる! とにかく大きな声で泣きます。 キーって泣いて泣きやまない。 いや～と大泣きする ふるえて怒る イヤぁーと叫び、体を反って怒る	やったー! とばんざいして飛び跳ねる(3) ニコニコ、満面の笑みです(3) 満面の笑みで拍手(2) むすんでひらいてなど、自分が知っている曲だとうれしそうです。体でビョンビョン喜びが伝わります 体をくねくねし、いい表情。 楽しそうにおどる 笑いながら、そこら中を早足で歩き回る。 小走りなかんじで動き回る。 体全体で表現する。 ばんざいして体いっぱい喜び 大きな声を出してとにかく全身で表現する とってもいい顔をしてつま先立ちでぐるぐる回ります 声を出してキャハハッ笑う。 ウレシィ～～～とギュー～～～と。 まず、きゃぁ～という奇声(?)をあびせます。 体を大きくゆり動かす	我慢してる感じでヒックヒックとなる。少したってから“エヘン”と泣き出す すごい勢いで抱きついてくる 後ずさりして泣く ふるえて泣く 「アーン」と泣いたりします。 涙をボロボロ流してキャーと叫びながら泣く イヤ～～～ヨ!! とすごくがっかりする 涙をこらえて…涙を流します	ギャー～～～と泣き叫ぶ(2) 大声を出して泣く(2) 大声でギャー だまって表情が固くなる 引っくり返って泣き叫ぶ 涙をボロボロ流してキャーと叫びながら泣く イヤ～～～ヨ!! とすごくがっかりする 涙をこらえて…涙を流します	甘えた声で泣く(涙が出てなかったり…笑)。 服を引っ張って自分の方に連れてくる あとは手をひいて行きたいところへ連れて行きます 下の子の所へ行ってみんなにかまってもらいに行くなど
51	16	21	5	8	1
空間性	ぶいとどこかのへやにいく ふてくされて、となりの部屋に行く 床に寝そべる 床に転がって“イヤイヤ”と言う 床にねころがって足をバタバタさせて泣く 床に寝て泣きじゃくりまわす ゴロンと横になりダラダラする	その方ばかり見る 遠くから様子をうかがったりします。 かべや誰かのうしろにかくれる	椅子の下にもぐり、ジタバタ 床に伏せて泣く 床に泣きながらゴロゴロ 床にねそべって「あ～ん」と泣きまねをします	服を引っ張って自分の方に連れてくる あとは手をひいて行きたいところへ連れて行きます 下の子の所へ行ってみんなにかまってもらいに行くなど	
17	7	0	3	4	3
関係	笑顔で抱きついてきたり、私の顔をのぞきこんで笑顔をみせる。「ママチュー」と言いながらチューしてくる 「フフ～ン」と言って私の顔を笑顔で覗き込む 目を細めて顔を近づけてきたりします 「うわーっ」てふり返ってこちらの反応をみたり、「できた」とよびにきます。 笑顔でのぞきこむ	(母に)抱きついてくる(6) しがみつく しがついてる(3) 私(母)にとびついてくる 助けてくれる人に突進! ギュー!! ママのところに逃げてくる 私の所に走ってきて抱っこをせがむ 体をつけてきて、ギューと強く握ってくる	泣きべそをかいいたり、抱きついてきます。何か話したそうにする べそをかくように、ママへとよってくる とにかく泣く!! 甘えてまわりつく 兄ちゃんと一緒に遊んで欲しいのかまってももらえない時など だっこをせがんだり 手を広げてよってくる	抱っこをせがんでくる(7) だっこだっこくっついてる ひざに座ってくる(4) ブラの紐をつかむ(2) からみつきたっこ、母の前にバタン!! だきおこして～～ 指しゃぶりしながら足につかまってきたり、すりよってくる ギューと抱きついてきたり、おんぶ、抱っこをせがみます。 おしゃべりになって気をひこうとします 体をスリスリしてきます ギューをせがむ 手を広げて抱きついてくる 「だっこ～」と足元にまわりつきます。愛用のタオル持参の時も抱きついて胸に顔をうずめる	

	① 怒った時	② 嬉しい時	③ 怖い時	④ 悲しい時	⑤ 甘えたいとき
					振り返って、ハハのところにもどってきます 抱きついて母をよしよしポンポン。ぎゅうっつ 赤ちゃんのふりをしてくっついてくる
57	0	7	18	6	26
言葉集	イヤイヤと言います。イヤ、イヤを連発する(4)	「やったぁ!!」って言ったり	声に出して怖いと言う。	どんなときでも「キー」と知らせます。	「抱っこ」「抱っこして」と言ってくる(7)
	「いい!!」嫌な時、いらない時、全て「いい」です。	「うれしい」って言葉を出します。	そばにいない時は「ママ」と呼んでいる	不安そうな様子で「ママ〜!!」と呼ぶ。	まとわりついて「抱っこ」
	地団駄をふんで「いやっ」と言う。	何かできた時は「できた!」	だっこと言う。		「ママ〜」と甘えた声で寄ってくる(3)
	最近「あ〜〜」と怒ってしまう。	「ヤッター」と言って両手を上げる。	顔がおこっていて「もう知らない」など言います		すり寄ってあれしてこれしていってきます
	イ・ヤ・ダ〜!!と言ったり、キャーと叫びます。	「〇〇うんち」と言う	ひたすら「おっかい」を連呼する		足元にしがみついたり、手を広げて抱っこの意味の「だっ!」と言う
	「メッメッ」と言ってたたくまねをしたり、「ブー」と言ってふくれます。	両手をあげてびよんびよんといふ	さけぶ(ママ、ママ)		指しゃぶりをした「ユマー」と言ってくる
	バカ、ブー、もう、いったたく		エーンエーンと泣いて抱っこしてと言ってきます		「だっこだっこ」言いながら、膝の上に入ってきます
	「ピシン」と言ってたたく		「怖い」って言う		「抱っこ〜」と思いきり手を広げて走ってくる
	「んっ!!んっ!!」「あー!?」など声をあげる		“怖いから!!”と言う		
	「めっ!」と言い、ペンと手でたたく		時にはキャー!!と言うときも…。		
	座り込み、ア〜〜といいいながら、何かをたたく		「ギャー」と言って抱きついてきます。		
			怖いよ〜!! とにげて来ます。		
			「おっかい、おっかい」と言いながら走りよってくる		
			「おっかーい」と泣き出します。		
50	10	6	16	2	16
なし	上の息子に比べ、怒る時は少ない。		全然でかわがりません。先日4歳のおにちゃんが前面でおどかそうとしたのに「へっ」と笑っちゃて、お兄さんの方がこまっていた	あまり悲しまない?	
				実はよくわからず…泣き出していることが多いです	
4	1	0	1	2	0

資料2 母親の対応

	① 怒った時	② 嬉しい時	③ 怖い時	④ 悲しい時	⑤ 甘えたい時
身体部位	顔を見てその時の状況で対応する	同じ顔をします	だっこしてからだをさする	頭をなでつつ、抱っこして背中をさする	ひざに座らせる
	顔をのぞきこんで「怒ってるの?」と声をかけます。 ボディタッチを色々な所に する	一緒に『イヘッ!!』の顔を して遊ぶ 同じ表情をしたり	ぎゅっと抱きしめ、背中や 頭をさする 頭をなでなで。ぎゅーっと 抱っこ	抱っこ、背中なでなで 抱っこしたり、体をさすっ たりする	ひざの上でお話などをする 同じように手を広げて待っ ていると飛び込んできてく れます ぎゅーうっとなで抱っこ&ほっ ぺスリスリ 頭をなでなで。体をなでな で。
	手を差し出して自分から来 るのを待ってます おしりを叩く	一緒に笑って手をたたいた りする(2) 一緒に手をたたいたり、追 いかけたり。	抱っこして、あたまをなで てあげます 抱っこしてあげ、背中をさ わってあげる 子供の体を強く抱きしめる		
22	5	3	6	3	5
動作	怒った原因によるが、解決 できることはしてあげて、 できないことは別の事に目 がいくようにする。 ジタバタした時はとりあえ ず、興味しめず物を渡す。 しらんぷりして違う遊びに 誘ったり お手伝いをお願いする。そ してほめまくる。 他の事に気をそらします。	一緒に喜びます(6) 一緒に笑う(2) 一緒にニコニコ! 一緒にに笑顔 こちらにもにこにこ。	怖いもの見たさで、ずっ と見たりするので、その時は 抱っこで一緒に見ます。 同じ動作をして“こわい ねー!!”と言う。 楽しいことをする 他のものに気をうつす	3人で遊んじゃいます(忙 しくなければ) 手遊びをする 笑いながら見守る。 思わず笑ってしまう 一緒に悲しみます「悲しい ね～～」 それは悲しかったと同意し てなだめる 一緒に悲しむ リンゴをすっても食べなく、 大きいリンゴをつかんだま ま寝てしまつて。母は耐え るしかなかったかな… 固まっています なだめるが、ひどいときは 少し黙って見守る 落ち着くまで様子をみたり	とにかく甘えさせる。一緒 に遊ぶ。満足するまで。 一緒に遊ぶと落ち着くよう です。 遊んであげる とりあえず、要求に応えま す(2) なるべく応えるようにして います。 せがまれた通りにする 手が離せない時はテレビな で気をそらします。 抱っこやおもちゃで遊ぶが 全てできないので、待たせ たり、テレビをつけてしま う 甘えたいときは甘えさせて あげてますが、忙しい時は ガマンさせてしまっていま す。 (抱っこ) 出来ない時はあ やまる。
	あまりにもひどい時は抱っ こしたり、外に出たりして 気分を変えます。 声をかけて他のことで気を 引いたりします 興味あることに目を向けさ せ、落ち着かせる かわいくて笑ってしまいま す(2) ほほえましくして笑って見て います 今は魔の2歳児なので、自 分もイライラしないように します かわいいです。 うんとうなずきます。 落ち着かせる、 歌をうたう ～(なんとか)だねとまね しながら、なだめる 真似をする あぁー 自分も怒ったまね をする(子どものまね) 一緒に怒ってしまうことが あります。 物を投げるときに怒ります。 私もイラついている時は怒 る時もある(声でダメ!!)。 起き上がらせて軽くおこる ふてくされた時は様子を見 る。 だいたいは様子を見ていま すが 「そんな時もあるさ」と見 守る 何がイヤか様子を見てみま す。 その時の子供の様子にあわ せた対処をします。 原因があるとき(危険な物 にさわったのに遠ざけ た等)は気をそらすため に高いたかいなどであやす。	同じくニコニコです。 拍手(3) 一緒にジャンプします(母 はうきます)(2) 一緒におどる(2) 一緒にたたいてよろこぶ 一緒に真似して喜びます。 一緒に喜んで、手をとって ジャンプのお手伝い 一緒に体を動かす 一緒に踊って遊ぶ 一緒に同じように飛びはね て笑う 一緒になって足踏みします 一緒によしおになる。 一緒になり、うれしさを分 かちあうようにします 一緒に楽しむ ほほえましく見てる			
	29	30	4	11	10
ダイナミクス	ぎゅーっとなで抱っこ だっこしてギュッとする 最後にギュッしてあげます	ぎゅーうっとなで抱きしめて高い 高いしてあげます。私も心 から喜びます(嬉しいです) 一緒にヤッター!!	ギュッと抱きしめる(6) ギュッ!!! ポンポン 抱っこしてギューッ	「ギュー」と抱きしめます、 ぎゅっとなで抱きしめて イイコ、イイコ ぎゅーとなで抱きしめて イイコ	ぎゅーっとなで抱きしめる(4) ぎゅーとなで抱きしめる(4) ギュー～キュッ

	① 怒った時	② 嬉しい時	③ 怖い時	④ 悲しい時	⑤ 甘えたい時
	状況によるが、物を投げた時はきつく叱る。		一緒に怖い怖いしたり、大丈夫大丈夫でムギュしたりする		本当はぎゅっとしてあげたいのですが、なかなか手がまわらず…できるだけむぎゅっとしてあげたいと思います
			思いっきり抱きしめてあげる		抱きしめたり、ぎゅうっつと抱きしめかえす。
					甘えさせてあげるときはたっぷり抱っこ、ギュッします。
					ぎゅーうっつと抱っこしたり、ギューと抱きしめたり、チュッとすると喜んでくれます。
40	4	2	10	10	14
空間性					
0	0	0	0	0	0
関係	抱っこしてなだめる(3) とりあえず、抱っこ(2)	ハグする 抱きしめてあげて、一緒に喜びます	抱きしめてあげる(5) 泣き出すときは抱きしめます	抱っこする(9) 抱きしめたりして、側にいます	抱っこしてあげる(9) 抱っこすることが多い
	抱っこしたり、やりたい事をやらせてみたり。	寄って来た時は抱きしめてあげる	抱っこして落ち着かせる	おっぱいをあげる	相手ができるときには抱っこ
	しばらくお互いにクールダウンしてから、ヨシヨシ抱っこ。	一緒に笑ったり、抱きしめたりします。	抱っこする(2)	だっこかおんぶをする	時と場合によりだっこしたりしてあげる
	だっこでよしよし	抱きしめてあげる	抱きしめてあげると、すぐに落ち着きます。	抱っこして遊んであげる	抱っこをできるだけする。
	抱きしめます	ギューっとしてあげる	本当に怖いものなら抱きしめる	抱っこして、高い高いしたりして笑顔が出るようにする	そのときによって違うが、頑張らせたり、抱っこしたりする
	呼びかけてだっこしたりする	こちらも顔を近づけてぎゅうします。	笑うか、そうとう怖そうだったら抱きしめてあげる	抱っこして気を紛らす	笑いかけてだっこする
	だっこできるときはだっこして話しかける。	いっしょに笑い抱きしめます	はぐはぐしながら、どおしたのか聞いてみる	抱っこしていい子いい子でなでなでする	とりあえず、だっこする
	抱っこして話してみます。	ギュッと抱きしめる			甘えただけ抱っこする(わがまま以外)
	「はいはい」と抱っこ				おんぶする
					抱っこしながら、歌をうたたりする
					抱っこしてよしよし、ちゅー〇〇ちゃんもかわいいよ～となでてあげます
					できない時はおんぶか、絵を描こうとさそって後で抱っこする
73	13	9	13	16	22
言葉	言い聞かせる(3)	「うれしいの。よかったね」と言って抱っこする。そして何がうれしいのか聞いてみる	一緒に「こわいねえ」と言う。	何があったか聞く。「～でなきたくなっちゃたんだね」と言う。	声かけしながら、抱っこ
	「どうしたの～？」と子供の好きなぬいぐるみやおもちゃで話を聞いたりする。	声をかけ、ほめたりする	「大丈夫」と声かける	おいでとこえをかけたたり、だっこする時もある。	「どうしたの!？」声かけてあげてから、遊んであげたり、何をしたいか聞きます。
	床に転がるときは「何がイヤなの!!」と聞きながらだっこする。	「ギューッ」とだきしめながら私も笑顔をみせ、話しかける。	大丈夫だよ～と明るい声で応え、落ち着かせ、抱っこしたりする	抱きしめて落ち着かせて話を聞いてあげる	抱きしめたり、すぐに出来ない時は「少し待ってて」と声をかける
	どうしてイヤか聞いてみます。	なにが嬉しいか確認	だっこしてそれを見に行っで「恐くないね」とさわってみたりする	小さいながらも主張があるようなので、どうしたいのか聞いてみる。しゃべれなくても何か伝えようとしている	
	なんで怒っているか、聞いてみる	一緒にいって「よくできたね」とほめたり、頭をなでたりします。	安心させるように言葉がけをする	どうしたの?と聞く	
	怒った内容について、聞いてみたりする	「嬉しいの?」と笑いかける	だっこして「だいじょうぶ」と声をかける	抱っこして「どうしたの?」と聞いてみます	
	理由を代弁しながら「〇〇がしたかったの? こうすれば?」など教えたりしていく	うれしいねえ、よかったねえと言う。	抱っこして声をかける	抱っこして代弁してあげる	
	悪いことをした時はダメなことを説明して、物をこわさないように、たたかないように言う	「何何がうれしい Ne」って言ってあげます。	大丈夫だよと安心させてあげます	「どうした?」「悲しかったの?」と聞きます	
	注意する時もあるし、	チューをして「ありがとう。ママうれしいよ」と言う	抱っこする。何が怖いのか聞いてみる。怖くないものは大丈夫っておしえてあげる。怖いものはお母さんがいるから大丈夫だよってギューってする		
	物を投げた時は「～が痛くて泣いてしまうよ」「ごめんねだね」と言う。		だっこして、何がこわいのか一緒に共有する、話しかける、落ち着かせる		
	ダメな事はダメな理由を話してやめさせます。		すぐ振り返り、私や家族をさがしてしがみついてくるので、抱きしめたり抱っこして言葉をかけて安心させます		

	① 怒った時	② 嬉しい時	③ 怖い時	④ 悲しい時	⑤ 甘えたい時
	悪い事をして怒った時には、なぜ悪いのかちゃんと話を子どもに聞かせます。 その後、話してみる モノを投げたり、人を叩いたりしないように「イタイイタイよ」と伝える。 たたい事に対しては優しく「たたいではいけないよ、いたいよ」と言う。 痛い！と言ったり、「しないで」と言ったり、行動に対して話をする 子供の意思を尊重したり、いけない時はダメな事を伝えます。 「あれっ？何で怒ってるのかなぁ」って声をかけ、 泣いた時は「嫌だね、そうだね」と言葉を掛けて抱っこする。 物を投げたり床に寝転んだりした時は「イヤッ！」とした事を叱って要求を知る		“大丈夫だよー”とつづける こわいねえと同感。怖いなら～したら？(近寄らない、さわらないとアドバイス) とにかくだっこして「大丈夫だよー」と安心させる。 “だいじょうぶ、怖くないよ”と声を掛けて抱っこする 怖くないものなら笑って「こわくないよ」と言う 「大丈夫よ」と言いながら抱きしめて、なでなでしてあげる 「こわいの 大丈夫だよ」と言って抱っこする		
60	22	9	18	8	3
なし	しばらく放っておく(3) ほっておく時もある(2) 何をしてもムダなので放っておく 様子でほっておきます。 でも放っておいて落ち着くまで待つ ダメな時はほうっときます。自分で落ち着くことができれば寄ってきます。 気がすむまでそのままにしておく 何くわぬ顔でいる方が気が変わりやすい。 とりあえずはほっておいて、気が済むまで泣きわめかせる			ほっときます(2) ほおっとくこともある ワガママの時は少しほっとく たまに放っとく(汗)	
17	12	0	0	5	0

資料3 子どもの得意なポーズ

	得意ポーズ			
身体部位	顔、口	5	ばんざーい!! 大きなお口で	こわい顔
			嬉しいときに顔を「イーッ」ってする	トーマスのつमりの顔
			「にこっ」と鼻にしわをよせて笑う!!	
	頬	6	おいしいー。ほっぺをベタベタが得意です。	ハイ、ポーズという両手の人差し指でほっぺをさわり、にっこり (イラスト)
			ほっぺに手をあててアンパンマンポーズ	両手をほっぺにあてて「カワイイ」ポーズ
			ピースサインを両ほっぺにあてる (イラスト)	両ほっぺに指をつける (イラスト)
	手・両手	17	両手をあげて少し腰をおとしたポーズです	手をあげてニッコリ
			手を上にあげて、おどきもおどってます	指さし”これっ!!” おててタッチ
			手をグーにして、顔はイ〜!! の顔	『ポーズ』って言うのと、立っててもわざわざ座ってから、ほっぺに手をしてポーズしてくれます。もちろん女の子座り。お姉ちゃんのマネです。
			今はお顔にピースサインをして片方たてひざで座るポーズがおとくいです	とんとんひげじいさんのとんとん。おじいさんポーズ (腰を曲げて両手を後ろにする。)
			両手をあげます	両手をあげる
			くつ下を右手ににぎりながら左手はゆびしゃぶり	「やったぁ!」「できた!」と両手をあげます
			ハイポーズのかけ声で両手を上にあげます。ばんざいのポーズです。	やったー両手を上へ (イラスト)
			「あっかんべー」をよくやります。ほっぺに手	両手をおでこに V サイン
			バンザイ、ひざを曲げて踊るしぐさ	
28				
動作		Let's go! のポーズ	ばんざーい (3)	
		最近ジャンプが出来るようになってよくはねてます。	やったぁ!! ばんざぁい!	
		「ポーズ」ではないけど、いないいないばあ! がマイブーム	ひこうきブンブン 家の中でもブンブンをよくしているの、今日も出来てまんぞく	
		バンザイ、ズームイン、オッパッピー	指差し (イラスト)	
		むすんでひらいての手遊びが大好きです。(ポーズではないかも・・・ですね)		
11				
ダイナミクス		両手を上に挙げびょんびょんはねる	両手の人差し指でほっぺに”ピッ” とすること	
		首を振る!! こっちがびっくりするくらいフリフリします。	ほっぺに「び」 もう1回 (指たて) イラスト	
		(物を) ボイッ キラキラ	顔をくしゃくしゃにしてうでを組む!?	
		てをきらきらにする	リズムにのせて、手拍子、足踏みしたりおどります。テンポの良い曲が大好きです。	
		両手でグルグル回すのが楽しい〜		
7				
空間性				
0				
関係				
0				
言葉		片手をあげて返事 (「は〜い」らしき言葉) をする	両手をあげてばんざいのポーズをして「ダーッ」と声をだす	
		「やったぁー!」って言います		
3				
なし		よく、わからないかも・・・?		
1				

資料4 変身遊び

変身遊び		
身体部位	顔	1 鏡をみて自分の顔をみて笑ったり、首をかきあげたりしている
	手・両手	6 「かわいい」と言うと両手をほっぺにあてる。
		犬猫の鳴き声やパンダは目の所に手を持ってきてうさぎは手を耳にピョンピョンはねる。
		アンパンマン（両手をほっぺ）やバイキンマン（頭の上に角）などのまねっこもします
		うさぎなどは頭の上に手をおいてまねをする。
		うさぎさんになります。手を耳にみたくてジャンプします。
		「アヒルさん」は「ガーガーガーガーあひるさん」ですわりながら歩いて、両手を羽にみたくてます。
7		
動作	TV のヒーロー	12 お兄ちゃんがゴーレンジャーが好きなのでゴーレンジャーごっこが大好きです。
		兄の影響で戦隊もの（ゴーレンジャー）の変身は真似しています。
		お兄ちゃんの真似してゴーレンジャーに変身したりしています。
		テレビキャラクターのゴーレンジャーに変身。お兄ちゃんのまねをして戦っているつもりになっている様子。「エンジンソウルセットゴーオン」と声をかけると小さいリモコンをもってポーズをとります。
		お兄ちゃんの影響でゴーレンジャーごっこをしたり変身の真似をしたりします。
		お兄ちゃんの影響もあり、レンジャー系の変身が上手です。
		プリキュアの変身。怪じゅうに変身「ガオー」と人を追いかける。
		お兄ちゃんがいるのでヒーローものも大好きです。おもちゃの時計をして変身と言いながら顔つきも少し変わります。
		ウルトラマンに変身します（お兄ちゃんのまね）うでを高くあげる「アンマッチュ」と言いながら「そんなのけんけいねえ」という小島よしおのまねをする。お兄ちゃんの真似ばかりしている
		プリキュアも大好きで付録のビニールプリキュアエプロンでプリキュアに変身します。
		あとはレンジャーものになりきっています。
		あんぱんまん、あんパンチ、あんキックとかもしています。
	動物	16 ぞうさんひつじさん
		うさぎやへびなどにもなります。
		ぞうさんやひつじさん etc 動物やママやお姉ちゃんの真似っこが上手!! 特にお姉ちゃんが保育所で覚えてきたことを一緒にやるのがスキ。
動物		ねこ、いぬの鳴きまねごっこ
		犬や猫の真似をすると喜びます。馬になって上に乗るのが大好きです
		動物の鳴き声のまねっこが大好きです（サル、ゾウ、ネコ、イヌ、ネズミ、ウサギなどなど）
		曲でもあるうさぎ、パンダ、コアラに変身するのが大好きです。特にうさぎ！うさぎさん、うさぎさん こっち向いてばぁ、耳♪おめめ♪しっぽ ピョンピョン
		ブタのまね、鼻をプープーならす。
		ライオンやねこなど声まねなどする。
		タオルのしっぽをズボンのうしろにはさんでさるになったりします。かえるとびをして「ゲコ」といいながらとんでいます
		動物のマネっこが上手です。
		上の子とねごっこ「ひたすらニャーニャー言って四つんばいで動き回る。
		「パンダ うさぎ コアラ」を少しやります
		よく犬になっています。「ワンワン」と言って四つんばいになり、進んで喜んでいきます。
		動物に変身、うさぎやぞうなど
		猫の鳴き真似をしたり、
	家族	9 お兄ちゃんの真似が大好き。何でもお兄ちゃんの物が欲しいし同じ事がしたいです。いとこの少しお姉ちゃんの子のまねも大好きで話がまったく同じしゃべり方だったりします。おままごとでお母さんにもなります。
		ねーねのまね。園かばんしょったり帽子かぶったり。ままのまね お化粧ごっこ
		私がお化粧をしていると同じ事をしたがるようになってきた。
		母の口ぐせ”もー”を繰り返す
		母親の真似をよくします
		くまやキティちゃんのお母さんになっておむつをかえている
		変身はしないが、姉ちゃんの真似、同じものを使って同じ様に会話、お人形を使って遊んだりする（姉ちゃんがない間）
		おままごとあそび 私のまねをします
		兄（6歳）がするのを真似て踊ったり、転がったりしてます。
TV の芸人、アイドル	7	小島よしおにも変身してしまいます。オッパッピーは毎日やってます
		小島よしおの「オッパッピー」と「そんなのかんけいねー」とかを楽しそうにしています。
		小島よしおごっこ「マイクをもってネタをひととおりできる」
		小島よしお「オッパッピー」と言いながら、踊って遊んでいます。
		真似っこ？テレビのお笑い芸人さんの真似をする。

変 身 遊 び		
その他		クリスマスの飾りに使うモールを首から下げて音に合わせてアイドルの真似っこしてます。
		テレビを見て友達がハイハイしたり手をあげたりしているのをみてマネしている。
	2	おばけ～に変身したり、ようかいだったり
		曲に合わせて好きに踊っていることはある
	46	
ダイナミクス		
	0	
空間性		
	0	
関係		
	0	
言葉		お店の店員ごっこ「～ますんでえ、など語尾のみ日本語、あとはAちゃん語」
		ゲキレンジャー言葉を自分なりにしゃべってます。
		お絵かきにも「うさぎ」書いてと言います。
		日常の会話を全てそのまま真似をして、その後「真似しちゃた！」などと言う。
	4	
なし		そういえばもほう遊びはほとんどしていません。
		変身遊びはまだしたことないですね。今後してみます。
		変身遊びはしないかも。
		変身？？はまだですが、ひとりで「いないいないバァー」をしています。
	4	

Non-verbal Communication between mothers and children expressing emotions and pretend play in childhood

TAKANO Makiko

Abstract

The purpose of this paper is to determine how well mothers understand their children's non-verbal communication expressing emotions and pretend play. 54 mothers were surveyed about their children (1- and 2- year olds) regarding their behavior when they feel sad, angry, fear, happy or needy. The different behaviors were classified into 7 categories (body parts, action, dynamics, space, relationship, verbal, no-expression) which were adopted from Laban theory.

Analysis showed that the mothers recognize their children's anger, sadness and happiness though behaviors related to body parts, action or dynamics the majority of the time. Regarding fear and neediness, mothers were able to recognize these feelings mostly through relationship and verbal behaviors. Mothers understand children's pretend play by "action" (75.0%). The actions of pretend play are influenced by mother, a familiar people and TV. This shows that children develop physical expression to mimic the movement they see their mother, familiar people, TV actors and characters do.

Key words : non-verbal communication, mother and child, emotion, pretend play, Laban theory